

ここにも注目!

神戸市教育委員会との連携

神戸市教育委員会とJICA関西との連携協定は2007年に結ばれ、19年度で12年目を迎える。国際化に柔軟に対応でき、国際協力に力を発揮できる人材育成に積極的に取り組む神戸市に対し、JICA関西は開発教育支援、JICA海外協力隊、市民参加協力、技術研修などでさまざまな連携を行っている。今回の教師海外研修もその一環である。



「ワン・ワールドフェスティバル」での報告会。

教師海外研修では、教師という立場の人たちが集まって同じ体験をし、感動したり、気づきを共有することによって、多様な見方、考え方に合うことができます。そして開発課題について理解を深めるとともに、自分自身の価値観やものごとに対する考え方の変化を実感できることが最大の魅力です。研修での体験を子どもたちに伝えられるカリキュラムや教材作りには苦労も多く、悩むこともありますが、そんな時は、ほかの先生方に相談してヒントや助言を得ることもできます。学校の外にそういう仲間ができるのも、この研修の大きな成果の一つでしょう。

また橋本先生も言っているように、授業は1回やって終わりではありません。ネパールでの体験や授業をもとにして、「今、目の前にいる子どもたちに何ができるのか」「何を伝えることが大切なのか」をしっかりと考えてほしいと思います。



山中信幸(やまなかのぶゆき)さん
川崎医療福祉大学
医療技術学部 健康体育学科 教授

橋本さんが担任するのは、1年生から6年生まで13人が在籍する特別支援学級。授業は、橋本さん自身がテレビの人気番組風にネパールを案内する映像を見せることから始まった。子どもたちの興味を惹きつけ、外国への興味がわいたところで、世界一周旅行のようにならざる「いかわつこぐるぐる世界ツアー」を行った。地図上の18か国がゴールで、そこに駒が止まると、その国の旗と防災やSDGsに関連したメッセージカードがゲットでき、より多くのカードを手に入れたチームが勝ちになるゲームだ。「国ごとに防災の取り組みやSDGsの課題が違うことを遊びながら知るこ

ができます。ゴールが複数あるので、自分が好きな国にゴールできるのが人気でした」と橋本さん。ゲームで防災やSDGsへの関心が生まれたところで、災害時の対応、とくに水についての授業を行った。ネパールの村や阪神・淡路大震災時の水事情を紹介して、災害時の水の確保の仕方や水を含めた備蓄の必要性を児童たちと話し合った。

全4時間で構成された単元の4時間目は、神戸市の中堅教員資質向上研修の公開授業として行われ、他校の教師や同校の若手教員が見学した。1クラスに年齢や学習の進度も違う児童がいるので、全員が楽しんで学べる内容にすることに苦心したと橋本さんは言うが、「6年生の総合的な学習でも行える内容だった」「ゲームは、背景を自分たちが住む地域、街、日本などに変えることで、遊び方や学び方が広がる」と評価する声が多く聞かれた。

今年2月、大阪市で行われた関西最大の国際協力イベント「ワン・ワールドフェスティバル」では、ネパールでの研修と授業の様子が橋本さんらによって発表された。「来年度以降も、子どもたちに合わせて主体的・対話的な深い学びにつながる国際理解教育を行っていきたい」と橋本さんは語る。

伊川谷小学校 (兵庫県)



右:「いかわつこぐるぐる世界ツアー」で遊ぶ伊川っ子(伊川谷小の児童の愛称)。左:そのゲームのもとになったネパールのボードゲーム「Goat & Tiger」。



上:コマは8方向に進められ、18の国がゴールになっている。左:ゴールするとゲットできるメッセージカード。すべて橋本さんの手作り。

多文化共生と防災で 授業を組み立てる

業に取り入れる際には、国内で行われた事前事後の研修が役に立つたと言う。「開発教育にも詳しい山中信幸先生(川崎医療福祉大学)のワークショップでは、異なる意見をまとめる方法や写真を使った授業のやり方など、子どもたちの思考を深める実践的な手法を学ぶことができました。」

また、ほかの先生方と写真や動画を共有でき、授業内容について意見交換ができたことも大きな力になったと橋本さんは言う。

防災の視点で ネパールを見る

橋本和樹さんが教師海外研修に参加したのは、「教師になって8年。中堅として若手を育てる立場になりつつある中、自分自身の成長のためにも、さまざまな経験をインプットしたい」と考えたのがその理由だった。行き先は2015年に大地震があったネパールで、テーマは「防災」だ。

研修参加者は、橋本さんを含めた小学校の教諭5人、高校の教諭3人。首都カトマンズでは、JICAが協力している大地震からの復興事業や、小学校での防災に関する授業を見学した。カトマンズから車で4時間のバジヤラバラヒ村ではホームステイし、地方の暮らしを体験。村の小学校では橋本さんが防災のワークショップを開催し、子どもたちとの交流もできた。

その中で橋本さんは「水」に注目した。「阪神・淡路大震災の時に水がない大変さを経験してました。ネパールの村では水道は共同で、普段から水を大切にしていました。それに、祖父がJICAの下水道事業に関わっていたこともあり、水という題材も授業に入れていこうと考えていました。」

帰国後、ネパールでの経験を授

世界につながる教室③

子どもたちの目を世界にひらく

ネパール×多文化共生×防災

4月に入り、JICAでは今年度の教師海外研修参加者の募集が始まった。海外現場で何を学び、それをどう授業に取り入れるのか—昨年夏、JICA関西の教師海外研修に参加した神戸市立伊川谷小学校教諭の橋本和樹さんにお話をうかがった。

ネパール



神戸市立伊川谷小学校 教諭
橋本和樹(はしもとかずき)さん



世界遺産バジュバティナートから見たバグマティ川。ガンジス河につながる大切な川。



上:トイレの水はバケツを使って自分で流す。左:村の共同水場で洗濯をするネパールの女性。

